



大林道路株式会社

CSR報告書 2015



企業理念

～大林道路からのお約束～

3つのテーマからなる、大林道路の企業理念を紹介します。

豊かな生活環境の創造に向けて

社会基盤、産業基盤、生活基盤等において、安全で、快適で豊かな環境を創造し、サービスを提供することにより、人々に真の満足を与え、生活の向上と社会の発展に貢献します。

地域社会と共に歩み

企業行動を営むそれぞれの地域社会において、事業を通じ、また、その地域の一員として溶け込み、地域社会の発展に尽くします。

人間尊重の経営を行います

従業員一人ひとりの個性を生かし、誇りと働きがい、生きがいのある場を提供し、また、当社と関係のある全ての人が幸せとなることを願い行動します。

経営規範

1. 人々の期待に応え、時代を先取りした技術力により、新たな価値を創ります。

人々（社会）の要請・期待に応えることを目指し、時代の先を読んだ創造性あふれる技術開発によって、顧客が満足する新たな価値あるものをつくり、顧客の高い信頼と社会的評価を得るよう努めます。

2. 創造力豊かな人を育て、柔軟な組織のもとで、生き生きとした職場を創ります。

個性を尊重し、創造力を育て、能力を発揮しやすい組織及び能力ある人に報いる制度を築き、従業員が生き生きとして活躍できる「信頼と協調の風土」や創造への挑戦の気風に満ちた「闊達な職場風土」をつくりあげるとともに、安全対策の強化・充実に努めます。

3. 良き企業市民として、社会と文化の発展に寄与します。

環境保全に配慮し、地域社会との良好な関係を構築し積極的な社会貢献の推進を図るとともに、公正で自由な競争と適正な事業活動を推進し、地域社会への貢献と文化の発展に寄与します。また、協力会社との公正で透明な契約の締結及び役割の明確化を図り、合理的な施工・製造システムを確立します。

Contents —目次—

企業理念／経営規範／目次／編集方針	1
トップコミットメント／CSR推進の枠組み	3
コーポレート・ガバナンス／コンプライアンス	5
Topics	
常磐自動車道 双葉地区舗装工事 竣工	7
ラオス：国道9号線整備工事 竣工	8
広島豪雨災害復旧への取り組み／ 積水樹脂株式会社様とのコラボレーション	9
「頼れる技能集団」機械センター職員による 精度の高い施工／ 本店移転プロジェクト ～担当者の奮闘記～	10

豊かな生活環境の創造に向けて

良質な工事・製品の提供	11
価値ある情報の提供	15
地球環境への配慮	16

地域社会と共に歩み

地域住民との良好な関係の構築	17
----------------	----

人間尊重の経営を行います

安全衛生方針	19
人材育成	20

大林道路の事業	21
---------	----

編集方針

大林道路は、2009年から社会的責任の取り組みや考え方をより多くのステークホルダーの皆さまにご理解をいただくため、CSR報告書を毎年発行しています。

報告内容は、左記に示した企業理念の項目に沿った形で内容を構成し、トップメッセージ、2014年度の活動など重要度が高いと考えた項目をできるだけわかりやすくお伝えできるよう心がけ、編集しています。

- 対象組織 大林道路株式会社
- 対象期間 2014年度（2014年4月1日から2015年3月31日まで。一部それ以前からの取り組みや2015年度の活動も掲載）

- 発行時期 2015年10月
（前回 2014年10月発行
次回 2016年10月発行予定）
- 作成部署 CSR報告書作成委員会
- お問い合わせ先
大林道路株式会社 本店総務部 総務課
〒101-8228 東京都千代田区猿樂町2-8-8
住友不動産猿樂町ビル
TEL：03-3295-8860
FAX：03-3295-8392

トップコミットメント

皆様の安心・安全を確保し、信頼される会社であり続けます。

当社は常に企業理念を念頭において行動し、社会的な責任を果たしていくことがCSR活動の根幹であり、ステークホルダーである皆さまに対し誠意ある企業活動を行う第一歩と考えています。

昨年度は東日本大震災の影響で中断した常磐自動車道の双葉地区での舗装工事を再開・完成させることができました。これにより常磐自動車道は3月1日に仙台まで全線が開通しました。

また、海外では、大林組と共同で施工していたラオスの国道9号線を総延長58kmに亘り改修する工事を、3年掛かりで完成させることができました。

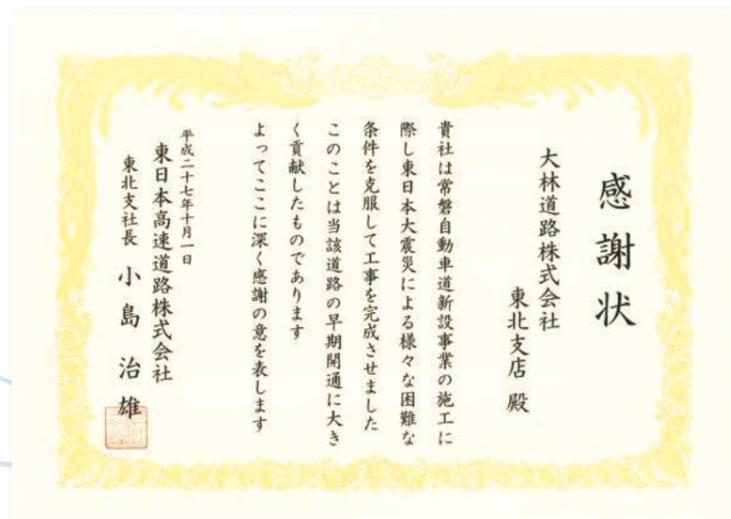
これからも大林道路は、舗装や管路などのインフラの老朽化を的確に診断・補修する技術の向上や、燃料電池自動車向けの水素ステーションの建築などを通して、皆様の安心・安全の確保に取り組んでいく所存でございます。

これらCSRの考え方や目指すべく方向について、その活動内容を取りまとめました。当社のCSR活動についてご理解いただき、あわせて忌憚のないご意見をお聞かせいただければ幸いです。

2015年10月



代表取締役社長
長谷川 仁



NEXCO 東日本様より感謝状をいただきました

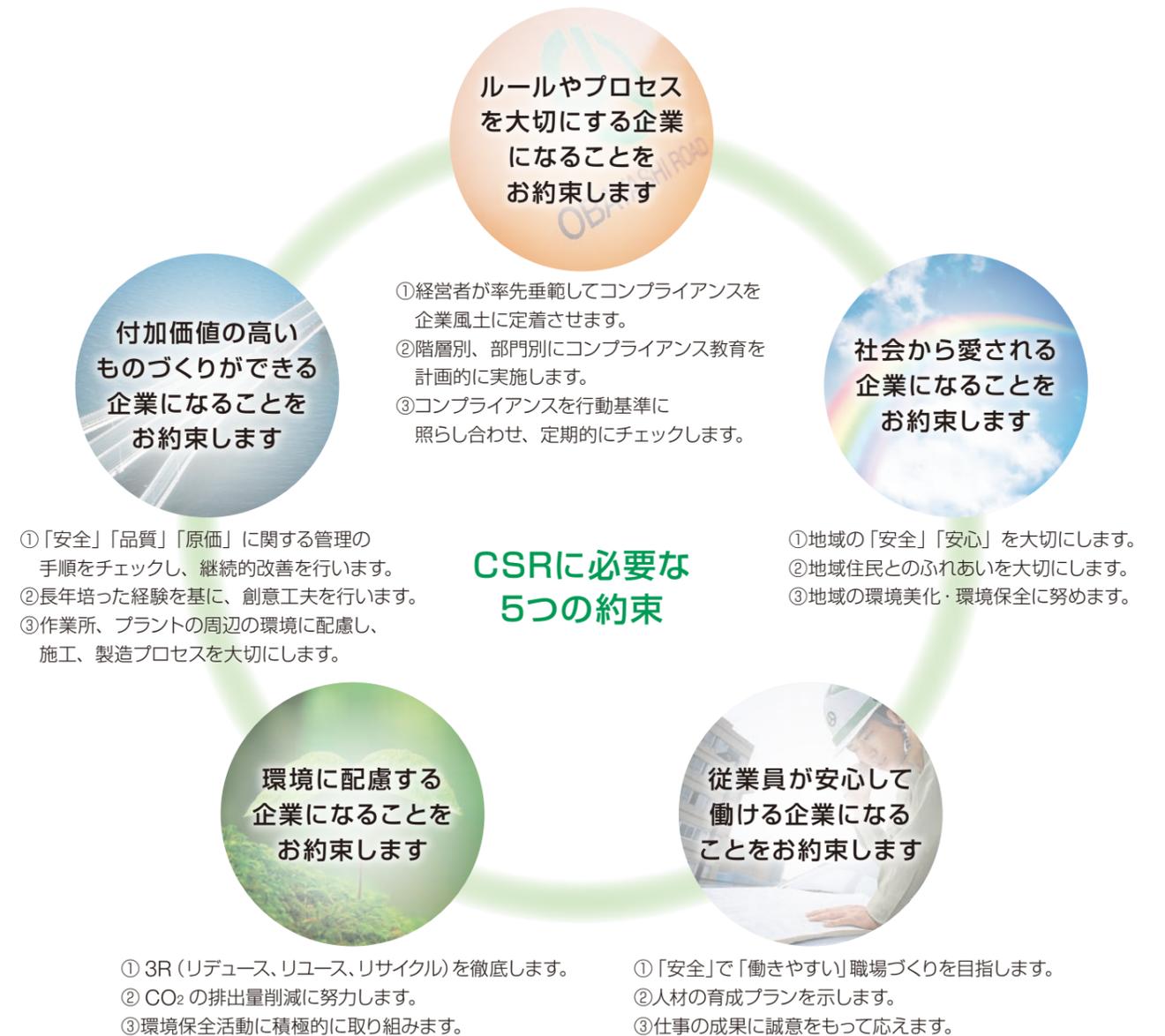


常磐自動車道双葉地区舗装工事を担当した職員

CSR推進の枠組み

大林道路のCSRは、企業理念を常に念頭に置き「豊かな生活環境の創造」「地域社会との共生」「人間尊重の経営」の実現を目指すことです。

大林道路のCSR活動に必要な第一歩とは「ステークホルダーに対する誠意ある企業活動」であると考えています。大林道路のCSR活動はコンプライアンスを基本とし、これまでの企業活動に加えて説明責任や情報開示を企業自らの意思で行い、地域社会への積極的な働きかけを行うことが大切であると考えています。



経営の透明性、健全性を高めるために

コーポレート・ガバナンス、コンプライアンスを基盤とする経営を行っています

コーポレート・ガバナンス体制

大林道路は、コーポレート・ガバナンスを通じて内部統制していくことがコンプライアンス経営の根幹であり、健全な企業として発展していく上で不可欠な要素であると考えています。

その考えのもと、事業活動に対する説明責任や経営の健全性、効率性および透明性の向上をめざして、また正しい経営判断を行い、実行できるよう取締役会、経営会議、企業倫理委員会などで十分審議し、適宜、監査役会に報告し、適切な監査を受けています。

また、企業会計については、独立の立場である会計監査人から監査を受けています。

内部統制体制／コンプライアンス

- 企業倫理綱領行動基準（2002年制定）において「反社会的勢力との関係遮断」を定めており、従業員研修などの場での反復教育・指導により周知徹底を図っています。
- 企業倫理遵守のための基本方針を策定し、定期的に企業倫理委員会を開催することで、企業倫理遵守の徹底を図っています。2014年度は、4回の委員会を開催しました。
- 経営の健全化を目的として、内部通報制度を設けています。通報内容については、直ちにその事実関係を調査し必要な処置をとっています。
- 内部監査担当部署による各部門の業務執行状況、コンプライアンスおよび財務報告に係わる内部統制システムの監査を定期的実施しています。2014年度は、全店において実地監査を行いました。

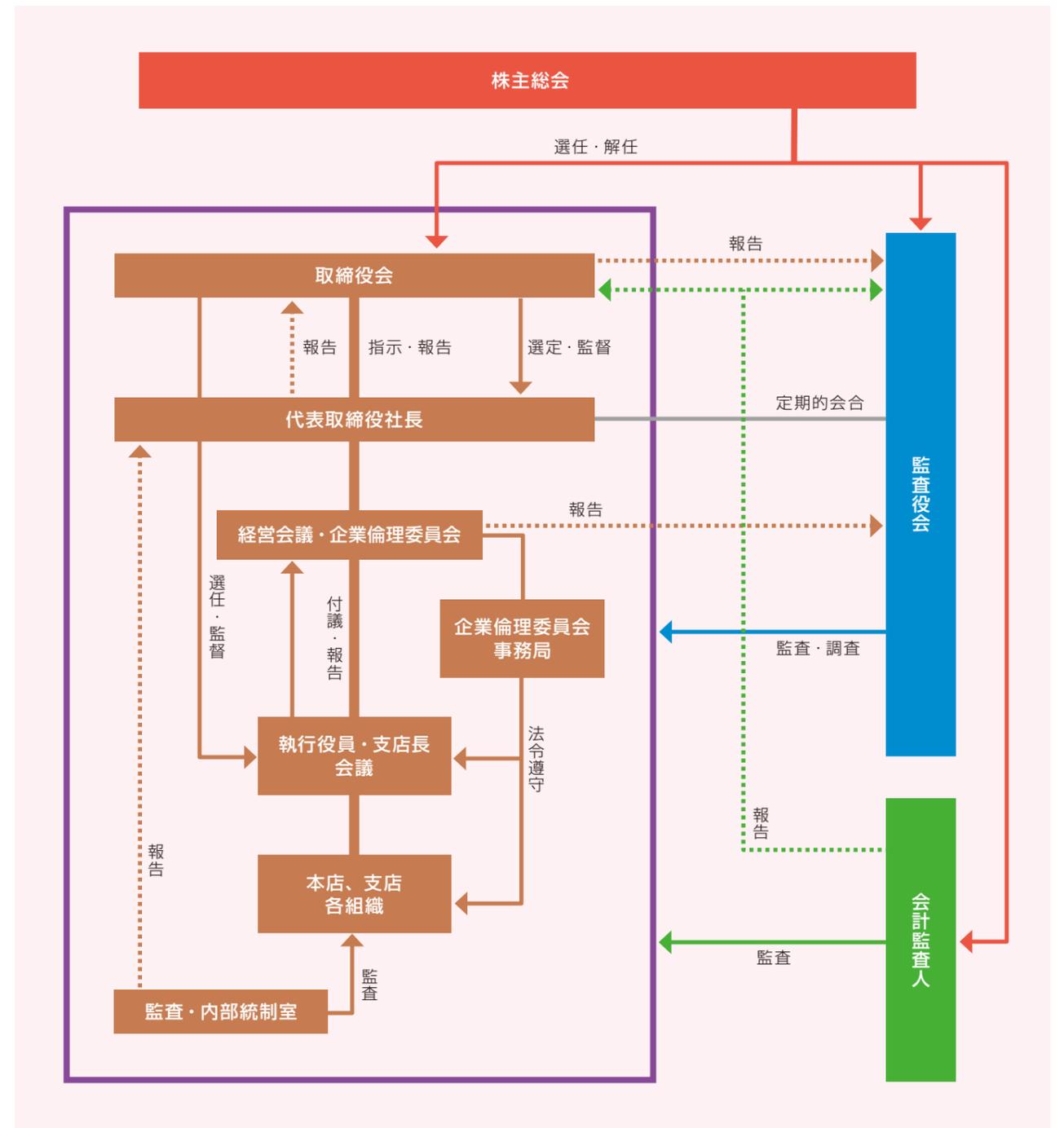
危機管理体制

- 危機管理対策規程を整備、運用し、危機を未然に防ぐとともに、万一発生した場合にも迅速かつ適切な対応ができるよう対策をとっています。
- BCP（事業継続計画）を策定し、自然災害など予期せぬ事態が発生した時にも事業が継続できるよう対策をとっており、お客様や地域住民への復旧支援、災害対応を実施できる体制をとっています。

情報管理体制

- 情報資産のセキュリティに関する基本方針を定め、緊急事態の発生に備えた予防対策を講じています。また、セキュリティ教育、不適切ソフトの調査、設問形式による従業員へのアンケート実施など、随時啓蒙活動を行っています。
- 個人情報取扱規程を整備、運用し、個人情報を適正に取り扱っています。
- 経営の重要事実に関して情報管理を行い、不正な取引が行われぬようインサイダー取引防止規程を整備、運用しています。

コーポレート・ガバナンス体制図



常磐自動車道 双葉地区舗装工事 竣工

東日本大震災で中断していた常磐自動車道の舗装工事を再び当社が受注しました。平成26年5月から本格的に工事を再開し、平成28年6月までの工期を大幅に短縮して、平成27年3月1日に開通させることができました。この開通により常磐道は仙台まで全線が繋がりました。

工事区間の大半が帰還困難区域であり、除染したとはいえ9.5 μSv/h (50 m Sv/年超)以上の箇所もあったため、専用のつなぎ・マスクを着用しての施工でした。各自に線量計を携帯させて被曝管理も徹底したことで、無事竣工させることができました。

- 概要**
- **工事名**：常磐自動車道 双葉地区舗装工事
 - **路線名**：常磐自動車道
 - **工期**：平成25年10月1日～平成28年6月16日
 - **工事箇所**：福島県双葉郡楮葉町大字大谷 (STA.187+10)
福島県双葉郡楮葉町大字井出 (STA.194+30)
福島県双葉郡富岡町大字上手岡 (STA.293+00)
福島県双葉郡双葉町大字寺沢 (STA. 97+60)
 - **工事延長**：総延長 11,460m
土工延長 9,511m
橋梁延長 1,949m
 - **連絡等施設**：インターチェンジ 1箇所 (常磐富岡IC)
パーキングエリア 1箇所 (ならはPA)



セメント安定処理路盤施工後に震災を受け、ひび割れた着工前の状況



開通直前の状況 (左は路肩に設置された放射線量計)



最大で10t ダンプ50台/日、作業員200人/日を要しての舗装状況



全職員、全作業員参加による安全大会

現地担当者の声



所長
長井 伸芳

工期を1年以上前倒して完成させることができたのは、早期開通が復興への「希望の道」だという熱い思いが関係者全員の胸にあったからだと思います。

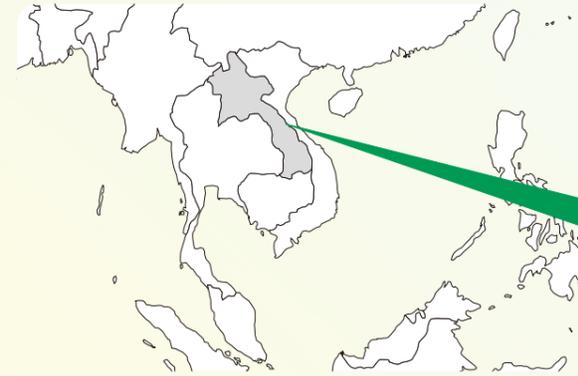
当社職員(総勢32名)やバックアップした本支店・各営業所だけでなく、過酷な現場の状況を理解した上で従事して下さった協力会社の皆様、非常に好意的に対応いただいた公官庁や地元の方々の協力あってこそ成しえた稀有な工事だと思います。皆さまに深く感謝すると共に厚く御礼申し上げます。



竣工 (常磐富岡IC付近)

ラオス：国道9号線整備工事 竣工

平成24年に(株)大林組・大林道路(株)JVがラオス9号線(メコン地域東西経済回廊)整備工事を受注しました。延べ58.1kmの区間を施工してきましたが、平成27年3月、無事に竣工しました。



施工位置図



施工場所

- 概要**
- **工事名**：ラオス国道9号線(メコン地域東西経済回廊)整備工事
 - **工期**：平成24年4月26日～平成27年3月15日
 - **工事場所**：ラオス人民民主共和国サバケット県
 - **工事概要**：既設舗装撤去 465,520㎡
掘削工/上層路盤撤去工 643,680㎡
路床盛土/路体盛土/路肩盛土 45,080㎡
下層路盤(t=25cm) 526,282㎡
上層路盤(t=10cm~25cm) 574,432㎡
基層/表層 1,067,252㎡



着工前



竣工後



路盤整正状況



舗装状況

現地担当者の声



工事主任
丸山 敦裕

最初に行ったことは、予算書の作成です。ラオス国内および周辺国のアスファルト商社や施工機械会社を熟知している現地スタッフとともに取り組みました。日本と異なる点は、採石場やプラント設置個所の選定および建設を行うこと、輸入方法、法律等について関係機関に赴き確認することなどでした。スタッフの雇用に関しては、契約した現地協力会社の知り合いや新聞およびラジオにて募集を行い、面接後契約をかわしました。

施工時における基本的な一日の流れを紹介すると、まずは朝6時起床、朝食後7時までに事務所に行き、配車打合せを行って8時までに現場へ。その後、午前中は12時頃

まで、1時間の昼食ののち午後は5時頃まで施工をします。それから事務所へ帰着後、協力会社のまとめ役を含む現場管理員で施工打合せを行い、日常書類作成後の19時~20時頃に業務終了というスケジュールでした。施工方法や品質・出来形管理などは日本と相違ないですが、安全管理では現地採用の作業員の意識を向上させるのに相当苦労しました。

私自身は初めての海外勤務であり、延べ2年3カ月の長期勤務でしたが、周りの職員にも恵まれ充実した業務を行うことができました。今後再び海外勤務となった場合は、この経験を生かし業務にあたりたいと思います。

広島豪雨災害復旧への取り組み

発注者：国土交通省中国整備局

工事名：広島豪雨災害支援（その15）工事



現場代理人
有馬 秋文

平成26年8月20日未明に広島市北部の安佐北区や安佐南区の住宅地を襲った大規模な土砂災害の仮復旧工事に8月26日から9月20日まで従事しました。

当社は、山から流出した土砂・大きな岩・流木等を水路から撤去する通水機能の回復と道路の仮復旧工事を担当しました。

露出した排水管・マンホール・流木・岩石等を搬出し、砕石敷きの仮設道路を構築したことで、被災者の帰宅、災害本復旧工事の着手が可能となりました。



施工状況

発注者：国土交通省中国地方整備局岡山国道事務所

工事名：岡山東部保守工事



現場代理人
小井住 孝義

8月29日夕方、国土交通省岡山国道事務所の緊急出動の要請により岡山国道事務所管理災害支援車両とともに、先発隊として太田川高瀬分室（最前基地）へ移動しました。到着直後の30日午前0時頃より作業を開始し、24時間体制で災害復旧作業を行いました。

八木用水路の内、L=2350mが流出土砂の堆積により水路埋塞となり、更なる降雨による二次災害の発生が懸念されたため、作業は緊急を要しました。各企業との連携により9月3日に八木用水路の通水機能を確保することができました。



仮設道路完成

積水樹脂株式会社様とのコラボレーション

事業法人（株）みどり会が発行している会報誌「Midori」に技術研究所 東本崇室長と本店環境施設営業部 武田有加里職員が積水樹脂株式会社様と掲載されました。お互いの技術の取り組みについて話しながら施設を見学、座談会の様子を取り上げていただきました。

“未来の道路はフレキシブルに変化する!?” 2社がコラボすれば何か新しい物が生まれるのでは…今後も交流を重ねて、夢の製品や技術を開発できればと考えています。



“道夢道 どうむどう”にて



皆さんと記念撮影



「2社の技術を合わせれば新しいタイプの道路が生まれるかもしれない」と夢が広がった座談会

「頼れる技能集団」機械センター職員による精度の高い施工

全国各地の施工現場で特殊な大型機械を操作して精度の高い施工を担う機械センターの職員は、まさに「頼れる技能集団」です。機械センターでは主に次の3つのメニューで若年者の育成を行っています。

機械オペレーターの育成

OJTの効率化や機械運転技能の伝承に一貫性を持たせるために、機種ごとの担当トレーナーが習熟度に応じた教育プログラムで若手を指導しています。



3DCADによる機械部品設計



高精度技術が求められるサーキットコースの舗設



開発したレベリングセンサ

本店移転プロジェクト ～担当者の奮闘記～

平成26年11月25日、当社本店は墨田区から千代田区猿樂町に移転しました。企業の移転は、個人家屋の引っ越しと全く違い、さまざまな手続きが必要になります。そこで、今回の移転作業がいかんにして始まり、そして終わったのか担当者の目線で追ってみることにしました。

課題解決の喜び



移転作業担当
畑 大輔

移転先ビルの現地調査、オフィスのレイアウト作成、備品の調査・整理、各部署の書類整理指導、LAN設備・電話システムの構築、社外発表手続きなど移転の準備作業を約3カ月担当しました。

最大の課題はオフィス面積が移転前より約16%減る点でした。「もったいない」を心掛けてなるべくリユースすることにした備品類と限られたスペースで、いかに仕事がしやすい環境を作るかに苦心して検討を重ねました。

書類整理は各部署の実数量と収納可能量を比較し、PDFによる電子化・外部委託・廃棄を組み合わせた計画を立て、進捗状況を綿密に確認しながら行いました。結果、移転先の収納可能量（書棚400個、段ボール2,000個）まで書類を減らすことができました。

この他にもさまざまな問題が発生しましたが、一つひとつ解決していくことに仕事のやりがいを感じ、自分自身の成長にも繋がっていると実感しました。



▲役員通路は、社長自ら計画段階から参画し、デザイン性に富む洗練されたものとなりました。



◀移転当日から円滑に業務が行えるよう、社内外的関係者と慎重に協議を重ね、各プロセスで漏れがないように進めました。



▶備品の搬入作業は2日間（昼夜間）におよびました。激しい雨の中、時間との戦いでした。



▼開所式も執り行われ、いよいよ新たな大林道路の歩みが始まりました。



▲交通アクセスが格段に良くなり、従業員はもちろん、お客様からも好評をいただいています。

豊かな生活環境の創造に向けて

良質な工事・製品の提供

方針に基づき、ニーズに応じた高い品質を確保します

大林道路の品質の維持・向上への取り組みと、安全・安心な環境の創造に資する技術を紹介します。

品質方針

私達は確かなものづくりにより顧客・社会からの信頼に応えます。

- ①顧客・社会からの要求に対する迅速な対応
- ②人材育成及び業務の継続的改善に努め確かな技術を製品に反映

水素ステーション建築工事完成 (岩谷産業)

総合エネルギー企業で、水素分野のリーディングカンパニーである岩谷産業株式会社様が、国内での先駆けとして、燃料電池自動車向け水素ステーションを20カ所設置することを表明されました。

本工事は、その一環として計画され、完成した建築工事です。「究極のクリーンエネルギー」にふさわしいデザインと、安全、機能性を備えた水素ステーションとしてお渡しすることができました。



物件概要

- 工事名: イワタニ水素ステーション 埼玉戸田新築工事
- 発注者: 岩谷産業株式会社
- 工事場所: 埼玉県戸田市大字新首字声原
- 工期: 平成26年11月10日～平成27年4月15日
- 工事概要: 鉄骨造
- 建築面積: 127㎡
- 延べ面積: 160㎡
- 現場代理人: 丸 武司
- 建築担当者: 権 成真



岩谷産業株式会社
常務執行役員
美澤秀敏様

発注者である岩谷産業株式会社常務執行役員美澤秀敏様に、本件工事についてご評価いただきました。

水素社会実現の一環としての水素ステーションの建設を「高品質」「標準化推進」をキーワードに発注致しました。

定められた完成期限は非常にタイトなものでありましたが、無事工期内に完成し、満足のいく施設を建設して頂きました。

この経験を活かして、今後ともご協力を賜りたいと考えております。ありがとうございました。

北陸地整で凍結抑制舗装フィールド実験に当社2件選定

平成26年度に北陸地方整備局が新技術活用システム (NETIS) の一つである「フィールド提供型」の凍結抑制舗装の公募があり、10社11技術の試行工事が実施されました。当社は、物理系凍結抑制舗装で最大の施工実績を誇る「ルビット舗装」と「ルビット舗装」をさらに発展させ、冬期だけでなく雨天時の走行安定性も向上させた「アイストッパー」の2技術が選定されました。1冬目には、高い効果が立証されています (右写真)。

今後は、国交省の検証だけでなく、社内でも追跡調査を継続して実施し、当社技術の優位性を実証していく予定です。



一般舗装



アイストッパー

ワークショップ (体験学習) で憩いの広場づくり

「学生が使える広場をつくりたい」という学生の発案から、東京家政大学の大学構内において整地工事を行い、その後、学生を交えてのワークショップを開催しました。ワークショップには学内の幅広い学科から3日間で総勢24名もの学生が参加してくださいました。



整地前
薄暗くあまり人が寄らなかった駐輪場

整地工事



整地後
整地後は見違えるほど明るい広場に

ワーク ショップ 開催



ワークショップ後
ベンチなどが置かれ、人が集まる憩いの広場完成

ワークショップ内容

生コン打設

ベンチとウッドデッキの基礎ブロックを作ります。セメント・砕石・水の配分を教わったのちは学生自ら生コンをつくり、型枠に流し込みます。



レベル測量

レベルを見ながら自分たちで作った基礎ブロックを据え付けます。18個のブロックの高さがそろるように少しずつ何度も修正する繊細な作業です。



ベンチ・ウッドデッキ制作

授業で家具などを制作する学生たちは木工は大得意! しかし、木材とコンクリートを組み合わせるベンチには手間取りました。素材の違いにさまざまな気づきがあったようです。



ものづくりが好きな東京家政大学の学生たちは、コンクリートミキサや測量機器に初めて触れ、興味津々で積極的に取り組んでくださいました。

はじめと薄暗い印象の駐輪場だったスペースは、ワークショップの後「憩いの広場」として生まれ変わり、学生たちがお昼ご飯を食べたり、付属幼稚園の子どもたちが遊んだり、その保護者がおしゃべりをする、人が集う明るい場所になったと、みなさんに喜んでいただけました。

また今回のワークショップを通し、大林道路の仕事についても理解と興味を深めていただきました。

学生の感想

レベル測量が細かな作業の繰り返しで驚きました。

広場が実際に使われている様子を見ると、私たちが作ったんだ! と誇らしく思いました。

土木作業の流れを見るのは初めてで、一つひとつの作業がとても新鮮でした。

使ってもらえるものをつくれることがすごいことだと思いました。

日常生活で大きな支えになっている道路を作るのは、大変な作業なのだと肌で感じました。

力仕事が多いのかと思っていましたが、細かい仕事や丁寧さが求められることが多く、驚きました。

ものが出来上がっていく工程や体を動かすのが楽しいなと思いました。

ワークショップ後のアンケートより

大規模修繕時代に向けた大林道路の橋面舗装技術

2015年より、主要な高速道路で大規模更新・大規模修繕事業が始まります。そのうち橋梁の床版に関する工事だけで、約15年で少なくとも「2兆円」の事業費が見積もられています。NEXCO3社だけでも大規模更新（RC床版架替：約230km）で約1.6兆円、大規模修繕（高性能床版防水等：約360km）で約1,600億円、となっています。また、国土交通省でも「速やかな修繕が必要な橋梁数」を「RC床版の補修：約2100橋」「鋼床版の補修370橋」としています。

橋梁は、主に「鋼床版」と「コンクリート床版」に大別されます。「鋼床版」では、長年の交通荷重により、デッキブ

レート自体の疲労ひび割れが発生している箇所や重交通による舗装のわだち掘れが問題となっています。また、「コンクリート床版」では、コンクリート床版自体の破損や雨水等による舗装の破損が多く発生しています。

橋面部の舗装は不具合が起こりやすく、土工部と違いさまざまな制約もあるため、より高い品質や効率的な施工技術を求められるケースが多くなります。

当社では、これらさまざまなニーズに応えるべく、数多くの橋面舗装用特殊技術をラインナップし、より良い社会基盤整備に取り組んでいます。

鋼床版

●IH式舗装撤去工法

IH式舗装撤去工法は、電磁誘導（IH）加熱によって鋼床版とアスファルト舗装の境界面を加熱し、接着を緩めることで撤去を容易にする技術です。鋼床版を傷つけることが少なく、騒音・振動・粉じん等の発生を抑制し、作業時間の短縮や作業安全性の向上が実現できます。



●鋼床版上SFRC舗装

鋼床版デッキプレートの疲労耐久性向上を目的に、鋼床版上に接着材やスタッドジベル等を施した後、鋼繊維補強コンクリート（SFRC）を打ち継ぐ工法です。当社は、供用中の狭小な橋梁部にも施工可能な小型コンクリートフィニッシャー（CCF）を開発し、安全かつ高品質な施工を行っています。



●改質グースアスファルト舗装

改質グースアスファルト舗装は、従来のグースアスファルト舗装で使用していたストレートアスファルト20/40とトリニダッドレイクアスファルトを入手が容易なポリマー改質アスファルトに特殊添加剤を加えたバインダーに変更することで、耐流動性・疲労ひび割れ抵抗性や施工性を向上させるとともに、低臭気を実現した舗装技術です。



コンクリート床版

●コンクリート床版補修技術

ウォータージェット工法などにより老朽化した床版の脆弱部を撤去し、コンクリート床版の再構築を行う工法です。床版の劣化状態を調査し、床版上面部分のみ補修する方法や部分的な床版打換え工法を調査により選定します。



●遮水型排水性舗装（ポスマック）

ポスマックは、乳剤散布装置付きアスファルトフィニッシャーで高濃度改質アスファルト乳剤を多量に均一散布すると同時に排水性混合物を敷きならす工法です。排水性舗装の下部に遮水効果を付与することで、直下（基層）に水密性の層を設ける2層構造としなくても1層で構築できる費用対効果に優れた工法です。



●シーロフレックスF、 施工性改善型バインダーの開発

当社のポリマー改質アスファルト「シーロフレックス」シリーズとして、橋面舗装用バインダー「シーロフレックスF」を開発・製造販売しています。また、さらに品質を向上させた施工性改善型バインダーの開発も行っています。



関東シーロフレックス製造センター

価値ある情報の提供

お客様にご満足いただくために

大林道路はさまざまな機会を通じて、「価値ある情報」を提供しています。

技術研究所 アスファルトラボ開設

技術研究所ではかねてよりアスファルト系材料の開発を行ってまいりましたが、より効率的な研究と開発を行うために平成26年10月、新実験棟を埼玉県久喜市に開設し、「アスファルトラボ」と命名しました。

「アスファルトラボ」内のすべての試験機に概要説明板を設置し、来所されたお客様が「何をやる試験機」なのか分かるよう配慮もしています。



技術フェアなどの参加

全国各地でさまざまな展示会に参加しています。各地域のニーズに合わせた新技術をパネル、模型やプレゼンテーションにて、大勢の道路管理者やこれからの時代を担う学生、一般の方々に分かりやすく紹介しています。

フェア名	開催場所	フェアテーマ	開催日時	出展技術
EE東北 '14	夢メッセみやぎ	活かそう新技術 復興から発展へ	H26.6.4 ~ H26.6.5	アイストッパー CCF
平成26年度 建設技術報告会	富山国際会議場	—	H26.9.25 ~ H26.9.25	アイストッパー
暮らしと技術の 建設フェア in 高松 2014	高松シンボルタワー	—	H26.10.10 ~ H26.10.11	アイストッパー アイストッパー-T ルビット舗装 RIM
建設技術フェア 2014 in 中部	吹上ホール (名古屋市中小企業 振興会館)	豊かで安全な暮らしと 環境の調和をねざして	H26.10.29 ~ H26.10.30	アイストッパー IH式舗装撤去工法 メチカラベープ
建設技術展 2014 近畿	マイドームおおさか	ええもん (技術) 使こてええもん 創る!	H26.10.29 ~ H26.10.30	ニュースラバ アイストッパー-R アイストッパー-T RIM 涼豊
ハイウェイ テクノフェア 2014	東京ビックサイト 西3ホール西4ホール	—	H26.11.20 ~ H26.11.21	[ブース展示] RIM アイストッパー [パネル展示] 導光板 (共同: 写真化学)
建設技術フォーラム 2014 in 広島	広島県立 広島産業会館 西展示館	見る・聞く・ふれる 国土建設フェア	H26.11.21 ~ H26.11.22	涼豊 アイストッパー-R アイストッパー-T

(社内)

フェア名	開催場所	フェアテーマ	開催日時	出展技術
第24回施工技術発表会	曳舟文化センター	技術でガッツ!	H26.11.5	執筆報文 34編



地球環境への配慮

地球環境と調和した企業経営に取り組んでいます

地球環境に対し、「大林道路はどのように貢献できるか」を常に考え、実践しています。

環境方針

私たちは地球や地域を汚染から守るため、環境経営に取り組みます。

- ① 法律や倫理に対して誠実な対応を行い、社会から信頼される会社を目指します。
- ② 「もったいない」気持ちを大切に、資源の有効利用を目指します。
- ③ 当社の環境技術を広め、住みたい街づくりに貢献します。

環境目標

- 2015年度環境目標
「計画的にリデュース (削減)・リユース (再利用)・リサイクル (再資源化) を推進する」

大阪支店 神戸アスファルト混合所 (神戸かるもアスコン共同企業体) の完成



神戸市長田区に環境へ配慮した新アスファルト混合所を建設し、『神戸かるもアスコン』として奥村組土木興業株式会社との共同運営を開始しました。最新鋭の都市型プラントとして燃料に都市ガスを使用し、最新鋭の脱臭装置や騒音を減少させるための外装材など、周辺環境へ配慮した設備を導入しております。都市部に隣接した立地を活かし、お客様の多様なニーズに迅速に対応するとともに、高品質の製品を安定して供給することを目指します。

東北支店 郡山アスファルト混合所 (郡山アスコン共同企業体) のリニューアルオープン

より幅広いお客様のニーズにお応えするため、郡山アスファルト混合所の設備を一新しました。廃棄物のリデュース (削減)・リユース (再利用)・リサイクル (再資源化) を推進する当社の姿勢をPRするために、3R推進協会のご協力を得て、3R活動のキャンペーンマークを混合所正面に掲げました。

また、郡山市のご理解のもと、市のイメージキャラクターである「がくとくん」と「おんぶちゃん」をサイロにデザインし、音楽都市郡山のPRにも一役買い、地域の方々にも親しんでいただける施設となりました。



人間尊重の経営を行います

安全衛生方針

全ての事業場で法令を遵守し、労働災害の防止
および安全衛生水準の向上に努めます

安全衛生スローガン

繰り返し型労働災害、公衆災害および交通事故の絶滅
～安全ルールの厳守～

安全衛生目標

① 災害抑制目標

- 死亡・重大災害発生ゼロ
- 休業4日以上の労働災害発生件数5件以下
- 事故災害発生件数130件以下

② 安全目標

- 車両系建設機械および車両による労働災害の防止
- 不安全状態・不安全行動による労働災害の防止
- 公衆災害の防止
- アスファルト混合所での事故・労働災害の防止
- 交通事故の防止

③ 衛生目標

- 社員の健康状態の把握、異常所見者に対する保健指導の徹底
- 協力会社従業員の健康診断の徹底と健康状態の把握
- 職業性疾病（特に熱中症）の防止

安全衛生活動

安全大会（安全意識の高揚）

毎年6月に全店で安全大会を実施しています。安全大会では、会社の労働安全衛生マネジメントシステムに基づき策定した安全衛生対策要項をすべての工事関係者に周知するとともに事故防止への積極的な取り組みや優良現場に対し表彰を行っています。



安全パトロール（安全衛生管理のレベルアップ）

安全パトロールでは、不安全行動や不安全状態を点検することで災害を未然に防ぎ、職場の安全意識を向上させるとともに、現場の安全衛生計画や書類整理の実施状況等を確認、指導します。

また、職場の安全と従業員や作業員の健康を守るため、経営者自らも定期的に現場に足を運び、現場の実態を把握するよう努めています。



外構工事



建築工事



社長による現地指導

交通事故防止対策

毎日の欠かせない交通手段である自動車による交通事故を少しでも減らすため、各事業場には安全運転管理者を配置し、安全運転教育を行っています。また、必要に応じ、車両の危険挙動をメールで管理者に配信する、テレマティクスシステムを装着し、安全運転指導に役立てています。

ハード面については、事故率の高い追突事故に対して衝突防止補助システム（モービルアイ）、後退時の後方視界確保のためにバックアイカメラを連絡車に装備して事故防止に努めています。

安全ニュースの発行

事故・災害事例やその時々々の安全に関する運動、熱中症対策など労働安全衛生に関する情報の発信、共有化を継続的に行っています（2015年3月末866号発行）。



人材育成

創造と挑戦の意欲に満ちあふれた人を育成します

教育制度

自己研鑽・OJTを基本とし、成長に合わせた必要知識の習得を目指し、教育を実施しています。



OJT・自己研鑽

新入職員研修

社会人として働くにあたって不可欠な内容を幅広く教育していきます。

4月に開催する新入職員研修では、社会人として必要なマナー教育のほか、技術の専門教育を実施します。また、12月に新入職員研修報告会を開催します。各々の研修内容を発表することで、お互いに刺激を受け、大林道路の職員としての意識を高めます。



職場見学

学生の専門知識や就職意識の向上をサポートしています。

工事現場、営業所の見学会を開催し、仕事に対するやりがいや建設業が社会に果たす役割を理解していただきます。



大林道路の事業

大林道路の事業内容、工事事例、財務状況などを紹介します

大林道路は、1933年の創立以来、道路建設を基軸とした長い歴史に培われた技術により、人々の生活に密着した道路を核に空港・港湾、通信情報施設・下水道、病院・学校、スポーツレジャー施設・公園、工業や商業の各種施設など社会インフラの整備や豊かな生活環境の実現に貢献していきます。

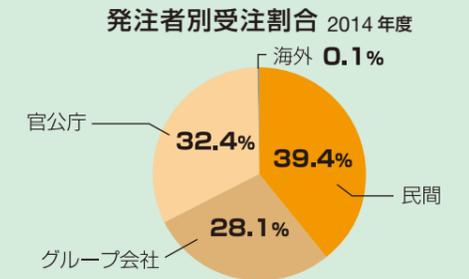
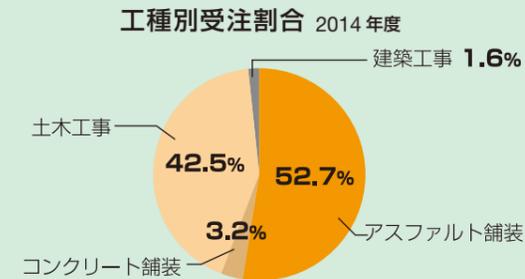
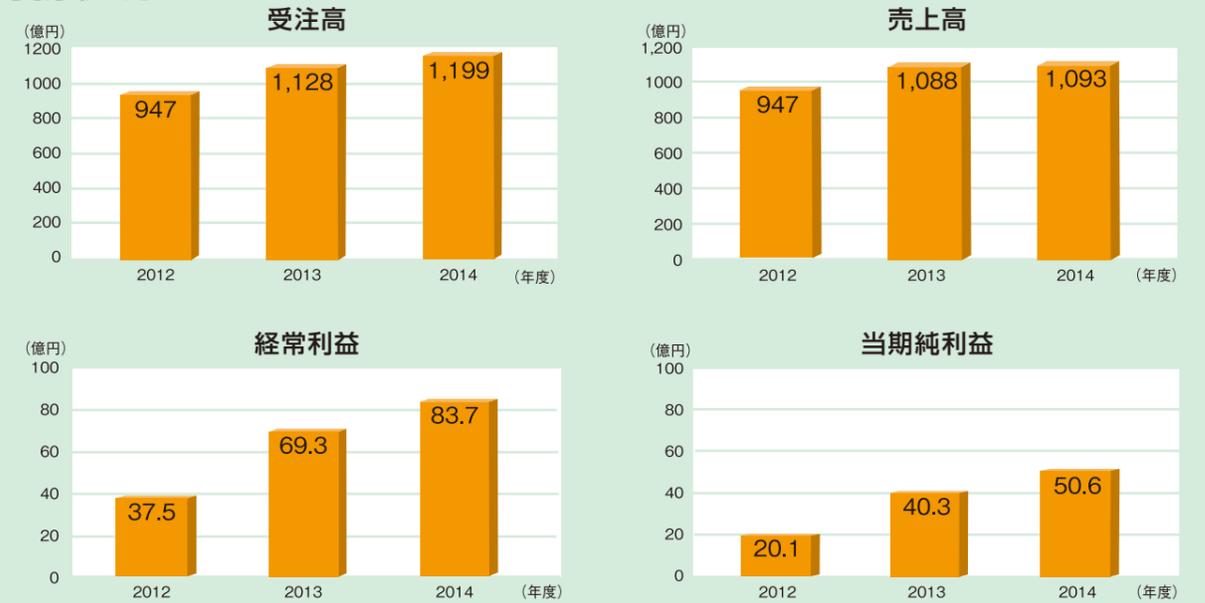
会社概要

- 商号 大林道路株式会社
OBAYASHI ROAD CORPORATION
- 本店所在地 〒101-8228
東京都千代田区猿楽町 2-8-8
住友不動産猿楽町ビル
Tel:03-3295-8860
- 代表 代表取締役社長 長谷川 仁
- 創立 1933年(昭和8年)8月26日
- 資本金 6,293百万円(平成27年3月31日現在)
- 従業員数 1,021名(平成27年3月31日現在)
平均年齢 42歳
平均勤続年数 18年
- 株式上市 東京証券取引所市場第一部
- 主な事業領域 1. 道路工事、舗装工事、造園、敷地造成工事、
上下水道工事その他の土木工事及び建築工事
2. アスファルト合材等の製造及び販売
3. アスファルト及び
コンクリート廃材の中間処理業務
- 建設業許可 国土交通大臣許可(特-24) 第2523号
(特-26) 第2523号
- 建設コンサルタント登録 建21第4207号 道路部門
- 一級建築士事務所登録 東京都知事登録 第60009号
大阪府知事登録(二) 第15214号
- 宅地建物取引業許可 国土交通大臣(6) 第4206号

事業所一覧

- 関東支店 〒101-0052
東京都千代田区神田小川町 3-20
Tel 03-3296-6680
- 中国支店 〒730-0051
広島市中区大手町 4-1-1
Tel 082-243-1966
- 大阪支店 〒530-0047
大阪市北区西天満 1-2-5
Tel 06-6360-7110
- 九州支店 〒812-0011
福岡市博多区博多駅前 3-2-1
Tel 092-432-0884
- 北海道支店 〒060-0001
札幌市中央区北一条西 2-9
Tel 011-241-1828
- 四国支店 〒760-0007
高松市中央町 11-11
Tel 087-833-3729
- 東北支店 〒980-0014
仙台市青葉区本町 2-5-1
Tel 022-225-4437
- 技術研究所 〒204-0011
東京都清瀬市下清戸 4-640
Tel 042-495-6800
- 北信越支店 〒950-0914
新潟市中央区紫竹山 1-5-6
Tel 025-243-6807
- 機械センター 〒346-0035
埼玉県久喜市清久町 6-5
Tel 0480-23-6100
- 中部支店 〒460-0002
名古屋市中区丸の内 2-18-25
Tel 052-222-5161

財務状況



株主・投資家の皆様に対して

「利益配分に関する基本方針」

当社は、株主各位に対して安定的な配当を継続するとともに、財務体質の強化や将来に備えた研究開発、設備投資などを行うために内部留保の充実を図ることを基本方針としています。

「情報開示の適切な対応」

法令開示情報の遵守と適時・適切な情報開示に努めるため、四半期開示を行っています(詳細は、ホームページに掲載しています)。

「企業価値の向上」

当社は、企業価値の維持と向上のため、ISO9001とISO14001を取得しています。

最近の主な工事



コマツ豊中事業所再開発計画建設工事



柳井バイパス柳井地区電線共同構



林鉄工所新工場新築工事



京セラ(株)鹿児島国分工場グラウンド



稲生地区外舗装工事



帯広広尾自動車道更別村南15号線